

特別支援学級 生活単元学習指導案

日 時 平成26年10月10日（金）5校時

場 所

児 童

指導者

1 単元名「おやつをつくろう」

2 単元について

(1) 児童について

本校の特別支援学級には、親学級で学習・生活している1年生1名と、国語と算数のみをわかば学級で学習している児童3名と、学習と生活全般をわかば学級で過ごしている児童6名の計10名が在籍している。学年や生活経験、発達段階が大きく異なるため、普段は個別の学習が中心となっているが、生活単元学習は親学級で過ごしている1年生を除いた全員で行うようにしている。

児童のコミュニケーション力についても学習と同様で、学年や生活経験、発達段階や本人が抱える困難さが大きく異なるため、学習を含めた学校生活全般において個別に対応し、指導を行っている。個々の児童のところへそれぞれが受け取りやすい方法やことばで情報がやって来にくいことが、コミュニケーション力における根本的な課題のひとつである。発信したいことを身振りで表したり一生懸命に音声化したり、1,2語の文で話したり大人が話すような流暢に聞こえる文章で発信したりしているが、どの児童も、発信したいことをもつことができ、それを発信したいと思うときは必死で発信しようとしている。児童のコミュニケーション力と調理経験についての実態は、次の通りである。(詳細は別紙資料)

児童(学年)	コミュニケーション力について	調理について
A		
B		
C		
D		
E		
F		
G		
H		
I		

今年度の生活単元学習において、児童は、畑作業の活動では畑作り・種まき・水遣り・草取りなどの世話を通して、自然に親しみながら野菜を育てる楽しさや世話の大変さを体験している。そうめんを茹でる・たまごやきを焼くといった調理の活動では全員が意欲的に取り組んでいる。また、お楽しみ会や誕生会の活動では話し合いや準備を行い、当日はみんなで楽しもうという気持ちが育ってきている。

(2) 単元について

コミュニケーション力とは「相手との意思疎通」で、自立した社会生活を送るために欠かせないスキルである。本学級の児童の特性から、「相手の発する情報を正確に受け取ること」も「自分の意志をもち、それを誰かに伝えたい」と思い、伝えたい相手を見つけ(関心をもつ)、相手に自分の意志を伝える」という意思を通わせる前の段階も、コミュニケーション力ととらえる。また、言語だけでなく身振り・しぐさや表情でも自分の意思を発信することができるのととらえる。児童の実態から、児童が情報を受け取りやすい方法で伝えたり音声と文字と意味とが一致する言葉を増やしたりして、児童の「相手の発する情報を正確に受け取る力」をまず高め、次に、個々に、身振りなどの音声言語化やマッチングの修正や表現の適切化・最適化など、みんなに伝わりやすい発信の仕方を高める必要があると考える。

調理活動もまた、自立した社会生活を送るために必要なスキルの一つである。本学級の児童は調理が好きなので、意欲を保って活動しやすい。また、学校と家庭とで連携して取り組みやすく、実生活に生かしやすい活動でもある。中でも「おやつ」は日常的な楽しみであると同時に、誕生会などのイベントでも重宝し生活を豊かにする一つである。特に本単元は、作るのが自分や友達が家庭で実際に作ったおやつメニューなので、これまでも興味や親しみをもって最後まで意欲的に活動し続けてきた単元である。実物や動作と音声や文字の言語との一致を図ることができたり、教え合いや助け合いなどの関わり合いをもったりするので、調理活動はコミュニケーションを学ぶ上でもよい活動といえる。

単元は、メニュー毎に調理のポイントを洗い出し、「混ぜる」だけでできたメニューに「加熱する」や「切る」などがひとつずつ加わったあと、「混ぜる」が「こねる」に変わるような順に調理することにした。単元内に買い物や親学級の先生へ感謝の手紙を書く活動も取り入れることで、算数や国語や他の生活単元学習において学んできた内容を本単元で生かせるように構成した。

(3) 指導にあたって

単元全体を通して、作業の様子から児童が指示を意図通りに受け取っているかを見とり、必要に応じて指示し直したり活動を修正したりしながら活動を進めたい。また、実物や体験と音声と文字の言語をつなげたり助詞や修飾語の使い方を正したり自発的な行動を動詞で音声言語化したりすることを通して、児童の「ことば」を豊かにすることを常に意識して指導にあたりたい。

調理活動では、その時間の調理のポイントを確実につかむために実演や板書などの視覚支援を行いたい。調理の技能は、児童の今の発達段階や経験に合わせて繰り返して行うことにより身に付け高めていきたい。

「泡立て器で混ぜる」や「まな板の上で包丁で切る」ことは基本として教えつつ、フードプロセッサーやハンドミキサーで混ぜたりピーラーやスライサーで切ったりする等も紹介し使い方を教えて、今回の活動にも今後の活動にも幅を持たせたい。さらに、「調理の基本を身に付けよう」を合い言葉に、身支度や後始末も含めた技能面の向上も図っていきたい。

できたという充実感を味わわせるために、それぞれの児童の能力に合わせた支援を行いながらも自分(ひとり)でできるようにしていきたい。ともすると自分の作業だけに終始しがちなので、友達の作業の様子にも目を向ける声をかけてよさを見て学ぶことができるようにしていきたい。4～5人のグループで協力して行う体験、失敗を責めないで助けたり励ましたりする体験、教えてもらった時に素直に聞き入れる体験、感謝したり相手のよさを話したりする体験を組み込んで、調理活動を通してよい人間関係を作りたい。

3 単元の目標

- ◎おやつ作りを通して、作り方を覚え、グループの仲間とよい関わり合いをすることができる。
 - ・グループで教え合ったり譲り合ったりするようなよい関わり合いをすることができる。
 - ・おやつ作り方がわかり、自分なりに頑張ろうとする。

4 単元の「学びのプロセス」の構想(16時間)

別紙一覧表のとおり

5 本時の指導（9／16）

（1）目標

- ①調理の手順がわかり、ピザを作ることができる。
- ②グループで教え合ったり譲り合ったりして、協力して作業を進めることができる。

（2）個人の目標と支援

児童（学年）	目標(○技能 ◇コミュニケーション)	支援
A	○道具の使い方を覚える。 ◇一緒に作業を進める相手に声をかける。	○ゆっくり、具体的に伝える。 ◇自分から相手に話しかけたことを誉める。
B	○作り方のことばと動作が一致する。 ◇一緒に作業を進める相手に声をかける。	○掲示の手順表と動作をつなげる。 ◇自分から相手に話しかけたことを誉める。
C	○アドバイスを聞いて自分で作る。 ◇アドバイスを聞いて受け入れたり、相手に「どうぞ」「ありがとう」と言ったりする。	○真似をしてやっていることを誉める。 ◇その都度真似することで自分から言えるようにしていく。
D	○アドバイスを聞いて自分で作る。 ◇アドバイスを聞いて受け入れたり、相手に「どうぞ」「ありがとう」と言ったりする。	○うまくできていることを誉める。 ◇その都度真似することで自分から言えるようにしていく。
E	○作る順番がわかって作る。 ◇一緒に作業を進める相手に声をかける。	○作業の流れを明らかにしておく。（手順表などで） ◇自分から相手に話しかけたことを誉める。
F	○自信をもって調理活動ができる。 ◇作業の仕方を友達に教える。	○調理のポイントを聞き返すことで確認する。 ◇皆の前で手本として作業したことを誉める。
G	○話を聞いてやり方がわかって作る。 ◇単語をはっきり言う。	○話や指示は短くゆっくりと行う。 ◇教師も口の形をはっきり動かす。
H	○よく見てやりかたがわかって作る。 ◇身振りや単語で伝える。	○注目したのを確認してから示範する。 ◇身振りや口の形をはっきり動かして伝える。
I	○自信をもって調理活動ができる。 ◇作業の仕方を友達に教える。	○調理のポイントを聞き返すことで確認する。 ◇皆の前で手本として作業したことを誉める。

（3）展開

段階	学習活動と学習内容	教師の支援と評価☆	準備等
つかむ 3分	1 本時の学習内容とめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">みんなできょうりよくして、ピザをつくろう (ぐをきっておいしそうにのせよう)</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作りカードを見せ、Fさんちのおやつを作ることを確認する。 ・F児が頑張ったことを紹介することで調理のポイントの確認をする。 ・見通しがもてるように、本時の学習の流れを提示する。 	おやつ作りカード 学習の流れ

活 動 す る	<p>2 作り方を知る。</p> <p>(1) 材料 餃子の皮 ウインナー チーズ ピザソース ピーマン</p> <p>(2) 道具 まな板 包丁 皿 スプーン オーブントースター スライサー</p> <p>(3) 作り方 ①ウインナー, チーズ, ピーマンを切る。 ②ギョーザの皮の上にピザソースを塗る。 ③②に①をのせる。 ④オーブントースターで5分焼く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を提示して名前を確認するとき, F児を中心に進め, F児の自己肯定感を高めたい。 ・餃子の皮, チーズ, ピザソースについては中身を紹介して注目を引きどんなものであるかを確認する。 ・図や写真で作り方がイメージできるようにする。 ・短冊に作り方を書いておき, 黒板に貼ることで作業の順番が確認できるようにする。 ・包丁で切るときに物を押さえる手の形(猫の手)のジャスチャーをして, G児が例示することでイメージ化を図る。 ・アルコールで手を消毒してから始める。 ・切る場所や待つ場所を指定して, 次にやるぞという気持ちをもてるようにする。 (D児 E児) ・押さえる手の形, 切る大きさがわかるように示範する。(A児 B児) ・うまく押さえられない児童には補助する。 ・切る大きさによって, めやすのシートを選ぶ。 ・薄く切るための器具を選ぶ。 ・順番にやるときに待つことができた人を誉める。(C児) ・熱くなるので, やけどに気を付けるように, 待つときの位置をトースターから離す。 (A児 C児 D児) <p>☆グループごとに協力して, ピザを作ることができたか。</p>	<p>材料 道具</p> <p>図 写真 作り方の 紙板書</p> <p>消毒液 シート A児B児 E児用 シート</p> <p>包丁 スライサー 皿 スプーン トースター A児C児 D児E児 用いす</p>
	<p>39 分</p> <p>4 試食する。 ・食べた感想を交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい以外に味や食感を表すことばを言えるように例示する。(F児 I児) 	<p>カップ 麦茶</p>

☆活動の様子の観察 C児・D児 (アドバイスを聞いて自分で作っているか・相手に声をかけているか) A児・G児・H児 (やり方がわかって作っているか・相手に声をかけたり働きかけをしたりしているか) B児 (行動とことばをつなげて作っているか・相手に声をかけているか) E児 (作業の流れがわかって作っているか・相手の働きかけに返事をしているか) F児・I児 (作業のポイントをつかんで作っているか・自分から相手に働きかけているか)

<p style="text-align: center;">ふ り 返 る</p> <p style="text-align: center;">3 分</p>	<p>5 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で頑張ったことを発表する。 (調理で・コミュニケーションで) <p>6 次時の学習を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で言えない人の分も頑張りを認め合いたい。(F児 I児) ・ことばで言えない児童は、表情カードを示すことで感想とする。(H児) ・家でも作ってみたいか、作れそうかを聞く。 (A児 E児 G児) ・教室でおやつ作りのまとめをカードに書くことを伝える。 	<p>H児用表情カード</p> <p>まとめカード</p>
<p>* 後片付けは、終業のあいさつをしてから行う。</p> <p>* 支援員は、主に安全に作業に取り組めるように支援する。</p>			

6 評価

(1) 調理の手順がわかり、ピザを作ることができたか。(活動の様子の観察)

(2) グループで教え合ったり譲り合ったりして、協力して作業を進めることができたか。(活動の様子の観察)